

6)

青森県における乳児神経芽 細胞腫マスキリング

秋 山 有
萩 野 幸 男
工 藤 久 美 子
(青森県衛生研究所)

青森県においては1985年1月より全県を対象として、乳児神経芽細胞腫マスキリング(以下NBスクリーニング)を開始した。NBスクリーニングに当っては、検査方法の確立、正確な検査の実施が重要なことは当然であるが、受検率の向上も強く要請される場所である。われわれはこれらの点に意を用いて研究をすすめてきたが、85年1月から12月までの成績は次のとおりである。

実 施 状 況

1. ろ紙の交付

ろ紙の交付は3ヵ月児健診のさいに行うことを原則としたが、本県での当該健診の実施状況は必ずしも良好とはいえない(受診率はほぼ50%)。従ってろ紙の交付方法は各市町村の工夫に任せ、3ヵ月健診の場、出生届の時その他、さまざまな機会をとおり対象全員に交付されるようつとめたが、交付状況の詳細については現在調査中である。

2. 受 検 率

85年1年間のNBスクリーニングの対象児は84年7月から85年6月までの出生児とすると、その総数は20,766であったが初回検査数は14,752となり、71.0%の受検率であった。ろ紙交付は県下67全市町村で行われたが、受検率でみると市町村間で37.7%という低率のものから、2町村ではほぼ100%に達したというように大きな格差があった。

検 査 成 績

1. 検 査 方 法

検査は衛生研究所において一括実施することとし、初回検査の方法としてはスポット法を採用した。初回検査において疑陽性、判定不能のものは当初スポット法による再検査を行ったが、10月以降のものについては高速液体クロマトグラフィー(以下液クロ)による再検査を行い、再検査において疑陽性、判定不能のものについては、再検査と同様な方法で再々検査を実施した。

2. 検査結果

検査結果を表1に示した。初回検査の疑陽性、判定不能のもの583件中再検査を行ったものは498(85.4%)であり、再検査時点での脱落が85件あった。ちなみに再々検査は100%の実施率である。

再々検査において、液クロ導入以降は、正常値上限をVMA $25\mu\text{g}/\text{mg Cr}$ 、HVA $32\mu\text{g}/\text{mg Cr}$ とし、これをこえるものについては、専門医療機関(弘前大学附属病院等)で精密検診を受けるよう保健所をとおし指導を行うこととした。今回はこれに該当するものが2例(表2)あったが、精密検診の結果、神経芽細胞腫は発見されなかった。

表1 検査成績(1985年1月~12月)

初回検査			再検査			再々検査		
検査数	疑陽性	判定不能	検査数	疑陽性	判定不能	検査数	疑陽性	判定不能
14,752	480 (3.3)	103 (0.7)	498 ※65	34 (6.8)	5 (1.0)	39 ※8	2 ※2	0

() = % : ※液クロによる検査の再掲

表2 再々検査における疑陽性者

No.	VMA	HVA
1	26.2	16.3
2	27.6	32.0

($\mu\text{g}/\text{mg Cr}$)

考 察

従来当所で実施している、先天性代謝異常症等のマススクリーニングにおいては、つねに100%に近い受検率を示している。これに比べNBスクリーニングの場合、検体収集方法に差はあるとはいえ、70%台の受検率には再検査時の脱落とともに問題があるものと思われる。しかし、初年度においてすでに受検率が100%に近い町村も存在することからすれば、今後の指導いかなによって受検率の大幅な向上も可能であろう。われわれも保健所等をとおして、市町村に対し、再検査の場合を含めて受検率向上のための働きかけを一層強めていきたい。

今回は1年をとおして、要精密検診者2名の発見にとどまったが、今後は精密検診実施機関と当研究所、保健所との間により密接な関係の確立が望まれる。これについては、すでに設置されているNBスクリーニング検討委員会において検討を求めていく予定である。

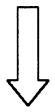
NBスクリーニングに限らず、この種の事業実施に当っては、費用対効果の面からの検討は不可欠の事項である。本県の場合1985年会計年度におけるNBスクリーニングのために計上した予算は、当所における担当職員2人および保健所、市町村段階での人件費を除いて1,130万円となっている。

この予算に対しての効果について、今ただちに評価することは困難であろう。しかし、NBスクリーニングを契機として、3ヵ月健診その他乳児健診受診率の向上がみられたのではないかと、またこれに伴っての母子保健全般への波及効果といった面については、今後、十分な検討が必要と考える。



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



青森県においては1985年1月より全県を対象として、乳児神経芽細胞腫マススクリーニング(以下NBスクリーニング)を開始した。NBスクリーニングに当っては、検査方法の確立、正確な検査の実施が重要なことは当然であるが、受検率の向上も強く要請される場所である。われわれはこれらの点に意を用いて研究をすすめてきたが、85年1月から12月までの成績は次のとおりである。